

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	児童一人ひとりを大切にし、互いに認め合える温かい人間関係を育む実践に全校で取り組む
目標(評価規準)		児童一人ひとりを大切にし、互いに認め合える温かい人間関係の育成に全教職員で努める
重点に係る現状 設定理由		「高め合うチーム旭」として全職員で全児童の指導に努めたい。一人ひとりに応じた支援と心の教育を進め、「互いを認め合い、思い合える」学級指導の工夫・改善を図りたい。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	教職員アンケートによる達成率は、「一人ひとりを大切にし、個に応じた指導をしている」81.3%「認め合い、高め合いのため、児童が関わる授業に取り組んでいる」76.6%「よりよい人間関係の構築、いじめ・不登校の未然防止のため、児童がお互い高め合えるような、学級経営・授業・行事に取り組んでいる」82.8%「学校生活・学習における児童の様子に気を配り、児童との信頼関係の構築に配慮している」84.4%という評価であった。昨年度よりも数ポイント良い結果となっている。引き続き人権意識を高くもち、教育活動を通じて認め合える温かい人間関係の育成を意識していきたい。
各アンケート等の結果	児童アンケート「友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできている」83.1%「授業や学校生活では、友達の考えを大切にし、互いに協力して課題に取り組んでいる」86.0%「学校が楽しい、旭小がすき」91.3%という良い評価であった。また、保護者アンケート「学校は子どもたちが自分で考え、最後まで粘り強く取り組めるような授業の実施に努めている」85.4%、「学校は子どもたちが互いに認め合い高め合えるような授業の実施に努めている」86.2%という概ね良い評価であった。今後も家庭と連携して、互いを認め合える温かい人間関係を築いていきたい。
自己評価結果 (見解と改善方策)	自己評価の結果は、概ね良好と言える。「一人ひとりを大切にし、個に応じた指導をしている」に関しては、教職員の達成率は昨年度より8ポイント上昇し、学校全体で学習を苦手とする児童に対して手立てをとりながら、進めてきたことの成果が出ていると思う。さらなる高みをめざし、次のような方策をとっていきたい。 ○管理職・学年部・児童指導部が連携して対応し「チーム」として組織的に取り組む ○心豊かな人間関係を育成する「めあて」を意識して学校生活・学習・行事に取り組む ○外部機関や家庭とも連携し、一人ひとりを大切にされた学級指導及び授業の工夫と改善に取り組む ○教職員が人権意識をもち、児童が互いを認め合える学級風土を構築する。
学校関係者評価結果	学校がとても落ち着いている。子どもたちの登下校を見ている、きちんとあいさつができていて、上級生が下級生の面倒を見ている様子も見られる。温かい学校風土をこれからも築いてほしい。
最終改善方策	下記の4点を意識して、来年度取り組んでいきたい。 ○管理職・学年部・児童指導部が連携して対応し「チーム」として組織的に取り組む ○心豊かな人間関係を育成する「めあて」を意識して学校生活・学習・行事に取り組む ○外部機関や家庭とも連携し、一人ひとりを大切にされた学級指導及び授業の工夫と改善に取り組む ○教職員が人権意識をもち、児童が互いを認め合える学級風土を構築する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	主体的・対話的で深い学びにつながる授業の向上をめざす
目標(評価規準)	主体的・対話的で深い学びにつながる授業の向上をめざし、研鑽を積む。	
重点に係る現状 設定理由	各学年の学習内容の定着を図る。また、校内研究を軸として、探究的な学びにつながる学習活動の工夫・改善を目指したい。子どもたちに学習習慣を身につけさせるため、家庭学習の工夫を図りたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	教職員アンケートでは、「探究的な学びにつなげるために、自分で考え最後まで取り組めるような課題を工夫している」の達成率は76.6%。昨年度より1.6ポイント上昇した。校内研究「すすんでかかわり、高め合う子」では、生活科や総合的な学習の時間を中心に授業研究を行い、子どもたちが夢中になって学習にとりくめるよう、授業力の向上をめざして研鑽を積んでいた。また、家庭学習については、学校が提示する宿題だけでなく、児童が自分で課題を考えて取り組める自主学習により、家庭学習の定着に努めた。
各アンケート等の結果	児童アンケート「課題について自分で考え、最後まで取り組む」が84.8%の達成率(昨年度より1ポイント上昇)で、多くの児童がしっかりと取り組んでいる。また、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできている」は83.1%(昨年度より1.8ポイント上昇)で、学び合いが定着してきている。家庭学習については、子どもたちのアンケート「毎日家で勉強を自分から進んでやっている」の達成率は81.3%で、家庭学習が定着してきている。保護者からの意見では「宿題が終わるとノートに練習したり、ドリルをやったりしている」や「学年が上がるにつれ家庭学習の内容の検討が難しい」など保護者が家庭学習に取り組む姿勢も見受けられた。
自己評価結果 (見解と改善方策)	校内研究を通じて授業力向上に努め、自己評価の結果は概ね良好であった。今後も主体的・対話的で深い学びにつながる授業をめざし、次のような方策をとっていききたい。 ○全教職員による研究授業開催 ○講師招聘、指導主事の指導・助言による校内研究の充実及び授業力向上をめざす ○宿題だけでなく自分から学びができるよう自主学習やAIDリルを活用した家庭学習の定着 ○家庭学習の内容の例示、児童の取り組み状況の提示等で家庭学習に取り組みやすい手立てを伝えていく
学校関係者評価結果	外部指導者を招聘し、授業力向上をめざしていることは良い。教職員と児童との距離感も良く、信頼関係が築けている。来年度も引き続き授業の充実を期待する。
最終改善方策	下記の4点について来年度も計画的に取り組む。 ○全教職員による研究授業開催 ○講師招聘、指導主事の指導・助言による校内研究の充実及び授業力向上をめざす ○宿題だけでなく自分から学びができるよう自主学習やAIDリルを活用した家庭学習の定着 ○家庭学習の内容の例示、児童の取り組み状況の提示等で家庭学習に取り組みやすい手立てを伝えていく

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校・家庭・地域の連携を図る
目標(評価規準)	学校・家庭・地域の連携に努める	
重点に係る現状 設定理由	保護者・地域の方々の協力を得ながら連携し、より良い学校環境づくりに努めたい。学校の情報を積極的に発信し、学校理解を深めることをめざしたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	教職員アンケートの達成率「授業参観、保護者会、個人面談、日常的な連絡等で児童の成長のために家庭と情報を共有し、共通理解に努めている」81.7%。「学級通信等で保護者に学級の様子を詳しく知らせている」81.7%(昨年度より1.1ポイント上昇)と概ね良い評価であった。また、「学校林や花壇の活用をはじめ、地域の人材や素材を教材化しようとしている」では81.3%(昨年度より9.6ポイント上昇)地域素材を活用した授業や地域や保護者をゲストティーチャーとして招聘するなど、保護者や地域と連携した教育活動を進めることができた。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校は学校便りや学級通信等で、学校の様子を伝えるよう努めている」91.3%。「学校は授業参観、保護者会、個人面談、日常的な連絡等で児童の育成のために家庭と情報を共有し、共通理解に努めている」91.5%の達成率で9割を超える概ね良い評価であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	保護者、地域との連携は、概ね良い評価であった。今後も学校の様子を伝え、保護者地域と連携した教育活動を進め、今後も地域人材・地域素材を活用した授業を展開していきたい。そのため、次のような方策を進める。 ○学校便り、学級通信を活用して、旭小の教育活動を伝える ○スクールガードをはじめ、地域と学校、保護者との連携を深める ○地域素材を生かした教育活動の充実 ○学校林や花壇の活用、栽培や収穫後の教育活動の充実
学校関係者評価結果	今年度は、防災訓練やスクールガード連絡協議会で学校と地域との連携を深めることができた。来年度もさらに連携を深めていきたい。また、今後も地域の人材や教材を生かした授業にこれからも取り組んでいきたい。
最終改善方策	下記の4点について来年度も取り組み、家庭・地域との連携を図る。 ○学校便り、学級通信を活用して、旭小の教育活動を伝える ○スクールガードをはじめ、地域と学校、保護者との連携を深める ○地域素材を生かした教育活動の充実 ○学校林や花壇の活用、栽培や収穫後の教育活動の充実